

ニンニクさび病に対する カナメフロアブルを用いた効率的防除法

病害虫管理部

1. 背景・目的

ニンニクさび病を薬剤で効率的に防除するための3つのポイントとして、①春からの発生を対象に防除、②初発時期を見極めて散布を開始、③薬剤の散布時期別の効果持続期間を考慮、があげられます。

そこで、令和7年に新規登録されたカナメフロアブルの散布時期別の効果持続期間を明らかにしました。さらに、既存の登録薬剤を組み合わせた体系防除の効果を検証しました。



ニンニクさび病

2. カナメフロアブルの散布時期別の効果持続期間

◎初発時期の散布では4週間程度、蔓延期の散布では3週間程度です。

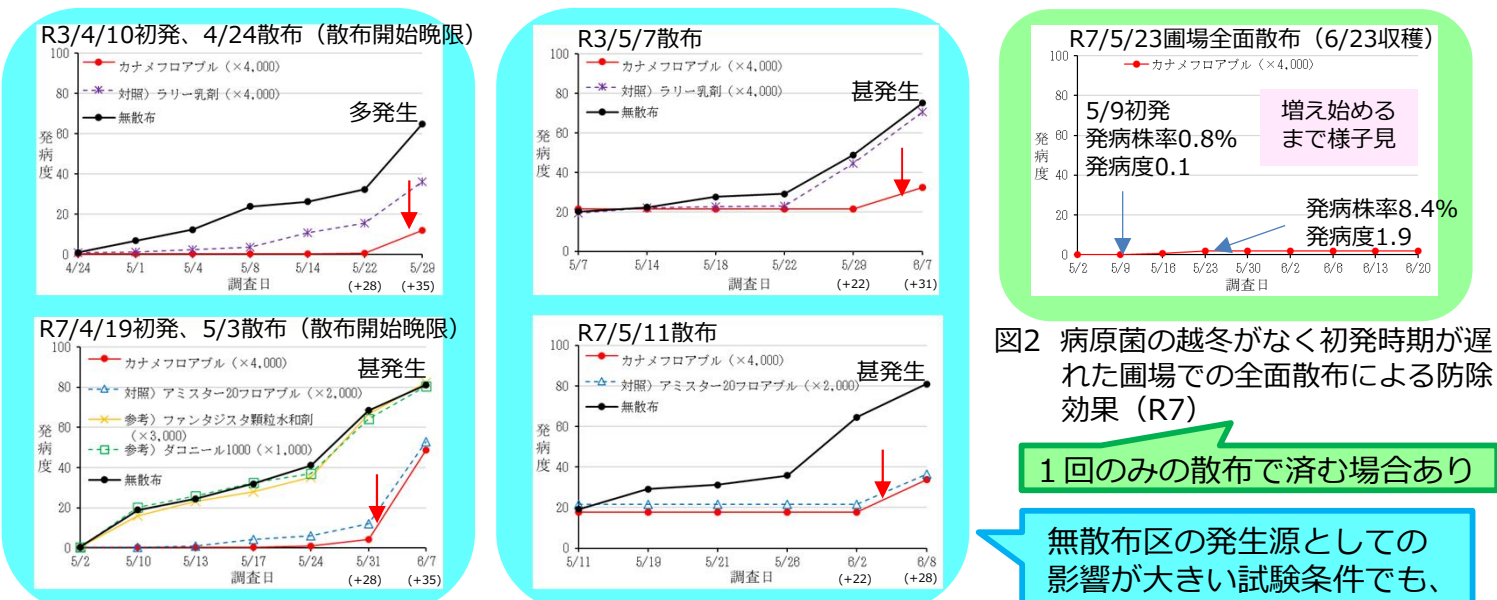


図1 初発時期1回散布(左)及び蔓延期1回散布(右)による防除効果(R3、7)

図2 病原菌の越冬がなく初発時期が遅れた圃場での全面散布による防除効果 (R7)

1回だけの散布で済む場合あり

無散布区の発生源としての影響が大きい試験条件でも、散布後の発病度の増加が遅い

【用語の説明】

- ・初発時期の散布：消雪後の散布開始時期（「令和4年度指導参考資料」）を考慮した1回目の散布
- ・蔓延期の散布：発生が目立ってきた頃以降の散布で、通常は2回目以降の散布
- ・効果持続期間（≒散布間隔の目安）：散布後から発病度が10程度増加するまでの期間（赤↓）

3. 体系防除の効果

◎登録のある各薬剤系統の中で、防除効果が高く、特に蔓延期の効果持続期間が長い薬剤を組み合わせると、少ない散布回数で高い防除効果が得られます。

《使用薬剤（おすすめ！）》

- ・カナメフロアブル（SDHI剤）
- ・アミスター20フロアブル（QoI剤）
- ・オンリーワンフロアブル（DMI剤）

○効果持続期間は3剤で同じ（上記2）、発生状況に応じて長短の調整は可能

《散布順序》

○どの順に散布しても防除効果は高い

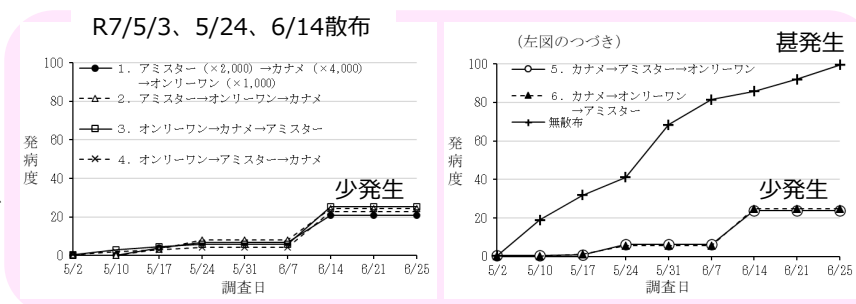


図3 体系防除の一例 (R7)